

これまでいただいた意見一覧

「京・資源めぐるプラン」策定後に開催した審議会及びその部会の審議の中で審議会委員からいただいた意見を記載する。内容によっては一部要約しており、網掛け箇所は資料1-2での紹介している意見。

年度	会議名	意 見(発言者)	意見の種別										キー ワード
			素材別					対策別					
			全 般	プ ラ	生 ご み	織 維 類	そ の 他	2 R	イ ク ル	分 別 ・ リ サ	プ ル ニ ュ ー ア 等	啓 発	
R6	第72回 本会	食品廃棄物リサイクルについては、食品リサイクル法の報告制度対象外である、年間発生量が100トン未満の食品関連事業者が市内に多数いると思うが、そうした事業者を対象とした仕組みを作って徹底していくことで大きな成果がでるのではないかと。(崎田委員)			○					○			食品リサイク ル
R6	第72回 本会	生ごみは燃えにくいものと認識しているが、燃やさないで再資源化すれば、より一層、脱炭素化を進めることになるので、前向きに検討いただきたい。(小島委員)			○					○			食品リサイク ル
R6	第72回 本会	ごみ減量について、発生抑制はもちろんだが、リユースをしっかりと進めることが必要。(崎田委員)	○						○				リユース
R6	第72回 本会	2025年の大阪・関西万博の半年間のイベントのために調達したものは、できるだけ廃棄にならないように、ほぼ100%をリユースするためのプラットフォームを新しく整備している点が非常に大きな特徴である。ぜひこの仕組みを万博後に地域の習慣として広げて、定着させてほしい。(崎田委員)	○						○				
R6	第72回 本会	多額の費用をかけて2070年まで使うクリーンセンターを作るのではなく、そのお金を使って生ごみを分別収集して再資源化するといった、私たちの未来に投資をする選択肢もあると思う。まだ少し時間があるので、市民も含めてみんなで議論していくべきだと思う。(佐藤委員) →ゼロベースで物事を考えられるかというのは、条件次第であり、それでは進まない場面というのがどうしてもある。いつか災害が起こることは間違いなく、処理体制をしっかりとっておかなければ、地域社会は立ち行かなくなるので、適正処理も非常に重要な機能である。循環型社会を目指していくことは重要であるが、適正処理体制をしっかりと守っていくことは大切である。(酒井会長)	○										施設整備

年度	会議名	意 見(発言者)	意見の種別										
			素材別					対策別				キーワード	
			全般	プラ	生ごみ	繊維類	その他	2R	イクル・リサ	分別・リサ	ブル等		リニューア
R6	第5回 施策部会	・レジ袋使用量について、1200トンで横ばいということは現状の施策ではこれ以上の減少は期待できないと理解するのが妥当かと思う。レジ袋使用量を減らすためには、使用率が高い①ごみ箱用、②生ごみ廃棄用、③食品保存用などの用途をよりエコな形で応える施策が求められる。(上原委員)		○					○				レジ袋
R6	第5回 施策部会	プラ袋に関するアンケート結果について、購入されている方が多くいると感じた。ここをどう減らすかが一つのポイントになる。汚れたプラ袋で洗ってもきれにならないようなものをごみ袋替わりにしたり、新聞やチラシを折りたたんでごみ袋替わりにしたりしているので、こうした方法をシェアしていくことも一手であると思う。(浅利委員)		○					○			○	レジ袋
R6	第5回 施策部会	代替可能そうな用途のレジ袋を減らすことをもっとアピールしていくのか、購入したプラ袋を使用するのは仕方ないとするか、については方針も含めて具体的な検討が必要である。(山川委員)		○					○			○	レジ袋
R6	第5回 施策部会	以前精華町で実施したアンケート結果では、マイボトルを使用している人も2Lや1.5Lのペットボトルを買ってきてそれをマイボトルに入れて持ち歩いているという方がかなりいるという結果であった。現時点で具体的なアイデアはないが、自宅ではペットボトルではなくお茶を入れることをアピールしていくことも必要だと思う。(山川委員)		○					○			○	ペットボトル
R6	第5回 施策部会	プラスチック対策について、他国がやっているような何かしらの規制やインセンティブがないと現状の横ばい傾向が続くのではないかと。今後、使い捨てプラスチック排出量の目標を設定することになると思うが、その際は具体的な施策とセットで検討していく必要がある。(佐藤委員)		○					○				使い捨てプラ
R6	第5回 施策部会	リフィル(Refill)やタップなど、給水スポットを紹介するサービスは、海外では広がっているので、外国人観光客向けに、京都市の給水スポットも連携できると、観光客対策になると思う。(上原委員)		○					○				給水スポット
R6	第5回 施策部会	ペットボトル排出量について、国際比較のアンケートを実施したが、日本のペットボトル消費量は比較的少ないという結果であった。もうひと踏ん張り減らしていくべきではあるが、今後目標の立て方は議論が必要である。(浅利委員)		○					○				ペットボトル
R6	第5回 施策部会	飲食店の宅配やテイクアウトが主流化したが、レジ袋が勝手についてくるケースが増えているという声を聞くので、今後、項目に加えていただき、場合によっては、そうした飲食店に働きかけるなど対策が必要になる。(矢野委員)		○					○				レジ袋

年度	会議名	意 見(発言者)	意見の種別												
			素材別					対策別				キー ワー ード			
			全 般	プ ラ	生 ご み	織 維 類	そ の 他	2 R	イ ク ル ・ リ サ	分 別 ・ リ サ	プ リ ニ ュ ー ア 等		啓 発		
R6	第5回 施策部会	ペットボトル削減に向け、京都市が関係している施設には少なくともペットボトルを置かないといったことはできるのではないかと。市役所で実施しているように区役所やその他施設にも広げ、京都市の施設ではペットボトルは売らないという姿勢を見せることで、少しずつ景色を変えていくことはできないかと。(佐藤委員)		○					○					ペットボトル	
R6	第5回 施策部会	単身者や学生向けマンションは分別状況が悪い印象がある。プラスチックの分別に関しても、どうせ分別しても燃やしているのだらうと市民から聞かれることがあり、情報発信が足りていないと感じる。なぜ分別をする必要があるのかをもっとアピールする必要があるのではないかと。(山根委員)	○	○							○			○	分別
R6	第5回 施策部会	プラ分別に関して、市民感覚と市が把握している実態が把握している実態との乖離が気になる。市民アンケートでは約7割が分別できているとの回答であるが、指標上の分別実施率は47%である。市民からすれば、我々はやっているのにどうしてこんなに数値が低いのか、という認識認識になるので、市がフォローして、その差を埋めていくべき。(酒井会長)		○							○				
R6	第5回 施策部会	食品ロス排出量がかかなり減少している。物価高騰により、消費者が工夫していることが要因と推測しているが、これを機に定着させる必要がある。どのような工夫をしているのかを市民から情報収集して、それを上手く発信して定着させるべきである。(山川委員)			○				○					○	食品ロス
R6	第5回 施策部会	フードバンクの活動支援について、これまでから2つほどの団体を支援してきていると思うが、取り扱っているものの質や量を把握する視点も必要になってくるのではないかと。全国でもフードバンクの活動がデータ化、数値化されてきている。(浅利委員)			○				○						フードバンク
R6	第5回 施策部会	食品ロスに関するアンケート結果についても、世代間の比較ができると必要な対策が見えてくるのではないかと。(矢野委員)			○				○						食品ロス
R6	第5回 施策部会	食品廃棄物リサイクルも他都市比較が必要である。民間施設の余力があるとの回答であったが、エビデンスも含めて、市域全体の食品廃棄物のフローを提示いただきたい。(酒井会長)			○						○				食品リサイク ル
R6	第4回 施策部会	学生のマイボトル利用について、キャンパス内では昔と比べて当たり前のように水筒を持っているが、大学を離れると持ち歩く習慣がついていないように感じるため、詳細な利用実態の把握が必要。(矢野委員)		○					○						マイボトル

年度	会議名	意 見(発言者)	意見の種別										
			素材別					対策別				キーワード	
			全般	プラ	生ごみ	繊維類	その他	2R	分別・リサイクル	分別・リサイクル等	啓発		
R6	第4回 施策部会	ペットボトル削減に関して、マイボトルの利用促進はもちろん進めていくべきであると思うが、それだけでペットボトルの量を半分以下に減らすことは困難であるため、何かしら売り方を変えていく必要があると考えている。(佐藤委員)		○					○				ペットボトル
R6	第4回 施策部会	マイボトルを持っていない利用客がテイクアウトをする際、リユースカップで提供して、他の店舗で返却できるようにする仕組みがあっても良い。(崎田委員)		○					○				
R6	第4回 施策部会	プラスチックごみ分別の市民アンケートについて、分別しないことがある場合の理由としては「どれが対象かわからない」や「どこまで汚れをとればよいかかわからない」といった古典的な回答が多いと感じた。そうした方の年代などを分析して、伝わっていない層に啓発を行ってほしい。(崎田委員)		○						○		○	
R6	第4回 施策部会	近年食料の価値が高いものになっている中で、食品ロスを減らして、それでも残ったものをしっかりリサイクルしていく社会にどのようにして変えていくのが重要である。(崎田委員)			○				○	○			
R6	第4回 施策部会	・食品リサイクル率に関して、食品廃棄物排出量が減っていることでリサイクル率が伸びているようであるが、目標達成に向けては、再資源化先の確保が重要である。(矢野委員) →食品リサイクルの課題については、資源化のコスト、収集運搬コスト、分別の手間、廃棄物の質、近隣施設の処理能力の余力はあるが施設の選択肢が限られていることなど、多様な課題があり、今後それぞれの課題解決に向けたアプローチの検討が必要であると認識している。(事務局)			○					○			食品リサイクル
R6	第4回 施策部会	2Rを進めることによって事業者にとっても経費節減になるということが伝わるようにすべきである。(佐藤委員)	○						○			○	報告書制度
R6	第4回 施策部会	排出事業者にごみ量をしっかり把握してもらうことで、意識が高まり、ごみ減量につながるので、事業者に意義を伝えていってほしい。(崎田委員)	○						○				報告書制度
R6	第4回 施策部会	電子化を進めることで多様な情報を入れ込みやすくなる。排出したごみがリサイクルされ、どのようなところで利用されているかといった情報を把握できるようになれば、地域循環を「見える化」することができ、より事業者の意欲が高まるのではないかと。(崎田委員)	○							○			報告書制度

年度	会議名	意 見(発言者)	意見の種別											
			素材別					対策別				キーワード		
			全般	プラ	生ごみ	繊維類	その他	2R	イクル	分別・リサ	ブル等		リニューア	啓発
R5	第71回 本会	今までやってきたような啓発だけの延長線上にプラスチックごみが減る未来が見えないので、国による規制を待つのではなく、京都市から規制を実施してほしい。(佐藤委員)		○					○					規制
R5	第71回 本会	ペットボトル排出量の削減について、新たな対策を検討することはなかなか難しいと思うので、例えば、給水機を一度体験してもらい身近に感じてもらったり、給水機のマップにアクセスできる二次元コードを大きく掲示するなど、今ある施策の質を高めていくことが大切。(中尾委員)		○					○					ペットボトル
R5	第71回 本会	プラスチック製品の一括収集が始まったが、市民へのアンケート調査の結果ではまだ認知度が低い状況である。分別することの効果と併せて、更なる周知に取り組んでもらいたい。(浅利委員)		○						○			○	
R5	第71回 本会	服飾メーカーを含めて衣類の3Rに関する取組をもっと強化しようという波が来ている。これまでは自治体や地域の活動が主だったが、リユースショップや集団回収にどの程度持ち込まれているのかといった、基礎的なデータを掘り起こしておいていただきたい。(崎田委員) 衣類の回収についても、様々な場所で行われているので、今後可能な範囲でモニタリングしてほしい。(浅利委員)					○		○	○				
R5	第71回 本会	京都市は観光客が急激に増えていると思うので、旅館やホテルなど宿泊業において、資源の分別や紙ごみ、食品ロスの削減を徹底してもらおうべき。(崎田委員)	○						○	○				観光客
R5	第71回 本会	粗大ごみの対策が気になっている。例えば、もっと直接的にクリーンセンターなどで販売するなどできないか。(佐藤委員)						○	○					粗大ごみ
R5	第2回 施策部会	(条例で求める)取組の中身に関して、ハードルを上げて効果が出る内容にしていくことができないか。再生プラスチックやバイオマスプラスチックの利用など、一歩踏み込んだ取組を設定してもらいたい。(浅利委員)		○							○			報告書制度
R5	第2回 施策部会	食品ロス対策について、事業者が自ら意欲的に取り組んでおり、そうした事業者を行政が支援することが必要でムーブメントにしてほしい。(崎田委員)			○				○					食品ロス

年度	会議名	意 見(発言者)	意見の種別								
			素材別					対策別			
			全 般	プ ラ	生 ご み	織 維 類	そ の 他	2 R	イ ク ル	分 別 ・ リ サ	リ ニ ュ ー ア
R5	第2回 施策部会	ホテルや旅館が食品ロス対策を行うことは、食品を無駄にせず気持ちがいい、コストの削減につながる、従業員の意欲が高まる、施設の評判が高まるといった相乗効果があるので、事業者と積極的に情報交換を行ってほしい。(崎田委員)			○			○			
R5	第2回 施策部会	衣料品への対策が重要になりそうだが、現行計画では柱として見えない部分がある。回収に関する記載はあるが、2Rやリユース、難しいかもしれないが天然素材へのシフトも京都市として検討してもよいのではないか。(山川委員)				○		○	○	○	
R5	第2回 施策部会	リペアや修繕といった観点は国際的にも非常に強くなっており、本来、日本でももっとビジネスになっていてもいい領域で、そこをどう育てるか、また伝統産業とリンクさせるかという発想もあっても良い。(酒井会長)				○		○		○	
R5	第2回 施策部会	廃油対策として、廃油をSAF(持続可能な航空燃料)として活用していく動きがあり、今後重要な視点である。(崎田委員)					○		○		
R5	第2回 施策部会	地域での廃油の回収を担う地域ごみ減量推進会議という組織があるが、高齢化により、コミュニティでの展開が難しくなっており、次世代型の在り方を考えないといけない。(浅利委員)	○						○		
R5	第2回 施策部会	許可業者が一時多量ごみを取りに行った際、リチウムイオン電池使用製品やマッチ、ライターも併せて排出されていることがある。従業員がクリーンセンターに持ち込む際、蛍光管などのようにリチウムイオン電池やマッチ、ライターを分別回収する場所(箱)などがあれば、分別が進み、処理施設等での火災も減らせると思うので検討いただきたい。(山根委員)					○		○		
R5	第2回 施策部会	積極的に取り組んでいる事業者の事例を発信するなど、ポジティブな情報の見える化が必要である。(崎田委員)	○								○
R4	第4回 手数料部 会	京都市の「特定食品関連事業者」の規模要件を引き下げ、できるだけ多くの事業者に関心を持っていただくなど、制度を見直していくことも重要。(崎田委員)			○				○		

年度	会議名	意 見(発言者)	意見の種別										
			素材別					対策別					キーワード
			全般	プラ	生ごみ	繊維類	その他	2R	分別・リサ	ブルニューア	啓発		
R4	第70回 本会	プラスチックをなぜ資源化するのか、どのように資源化するのかといったことを明確に市民に伝えるべき。(崎田委員)		○					○		○		
R4	第70回 本会	脱炭素について、プラスチック対策も重要だが、焼却時に必要となるエネルギーを減らすという観点で、食品ロス削減はもちろん、生ごみの水分を減らすなど、生ごみ全体を減らしていくことも重要であり、どのような施策を今後講じていくのかを明確にしていく必要がある。(崎田委員)			○			○				脱炭素	
R4	第70回 本会	環境への意識が低い方に対する施策が不十分ではないか。環境だけでなく、お金の節約といった視点を前面に押し出すべき。(中尾委員)	○					○			○		
R4	第70回 本会	事業者には2Rの啓発する際はエコ以外のメリットを具体的に伝えることが重要。(佐藤委員)	○					○			○		
R4	第70回 本会	・トレーサビリティを意識する必要がある。(矢野委員) ・リサイクル製品のトレーサビリティが効くような仕組みを考えてほしい。(崎田委員)	○						○			トレーサビリティ	
R4	第5回 手数料部 会	食品リサイクルについては、食品リサイクル法の報告義務がかからない年間100tより少ない排出事業者の取組が不十分であるため、そういった事業者を地域でどのように支えるかといったことも重要。地域でリサイクルループをつくり、飼料や肥料を上手に活用する取組が実践的に進められている中、京都市でも実施できないか。(崎田委員)			○				○			食品リサイクル	
R4	第4回 手数料部 会	食品廃棄物対策について、旅館等では、一律のメニューではなく、前もって、客が選択できるメニューにして、好き嫌いによる食べ残しを減らす方法を採用してはどうか。結婚式や宴会においても同様の策が考えられる。(郡嶋委員)			○			○				食品ロス	
R4	第4回 手数料部 会	食品廃棄物は、減量・リユースを優先したうえで、質の高いものから低いものの順に繰り返しリサイクルする「カスケード利用」の優先順位でリサイクルすべきである。小売店については、まず、アプリを活用しながら、価格を下げて販売する。次に、フードドライブを行い、市は、フードバンクや子ども食堂のルートやルール作りに積極的に関与・推進する。次に、家畜の飼料等に活用する。最後に、堆肥化や燃料化を行う。(郡嶋委員)			○			○	○				

年度	会議名	意 見(発言者)	意見の種別									
			素材別					対策別				キーワード
			全般	プラ	生ごみ	繊維類	その他	2R	分別・リサイクル	リニューア	啓発	
R4	第4回 手数料部 会	木質ごみについて、せん定枝をリサイクル施設に搬入した事業者は、そのリサイクル製品を購入しやすくなるなど、リサイクル業者と連携した取組も重要だと思う。家具については、少し修理してリユースするような場を市内につくることが重要だと思う。(崎田委員)					○		○	○		リペア
R4	第4回 手数料部 会	家具等をリサイクル施設に搬入しても、金属品が含まれることを理由に断られることもあり、許可業者が取り組む意欲は低い。リサイクルを促進するためには、市自らが受け入れたせん定枝などを選別し、燃料チップ化してはどうかと思う。(山根委員)					○		○			粗大ごみ
R4	第4回 手数料部 会	家具等のリユースも重要だと思う。市がそういう施設をつくるというよりは、許可業者がそのような場に持っていくことを、市の裁量で認めていただけるようになればと考えている。(新川委員)					○	○				粗大ごみ
R3	第1回 手数料部 会	食品リサイクル施設が市内にない中、食品廃棄物の民間リサイクルをどう進めるつもりか。結局、他府県の食品リサイクル施設に運ぶのであれば、運搬に伴ってCO2を排出することになり、環境に良くないので、そういったことも真剣に考える必要があると思う。(山根委員)			○				○			食品リサイクル
R3	第1回 手数料部 会	民間リサイクルを促進するための方策について、リサイクルするためには、処分費だけでなく運搬費がかかるので、基本的に排出事業者はリサイクルをすればするほど費用がかかるものである。(山根委員)	○						○			